【報告】令和５年度第１回障がい児・者連携に関する意見交換会のまとめについて

資料３

【日時】

令和５年１１月１３日（月）１４：００～１６：００

【参加機関】

和泉支援学校（教頭）、相談支援部会（代表）、就労支援部会（代表）、

基幹相談支援センター、子育て支援室、障がい福祉課

【意見交換会の目的】

障がい児・者連携に関する各機関の役割、現状、課題などを共有し、今後より良い連携体制の構築に向けて具体的な取組みを進めていくこと

【意見交換会から見えてきた課題】

①連携するツールはあるものの、上手く活用されていないことや情報の受け渡しがされていないこと

②社会経験の機会の少なさ

【今後検討すること】

①について

→・各機関で持っている情報や求めている情報が異なっているため、各機関でどのような情報が欲しいのかを整理し、どの機関が提供できるのかを整理

（※次回、各機関で使用しているツールを持参）

・情報のやり取りの流れを整理

②について

→すべて学校だけで対応するというものではないため、各機関で共同して取り組む。まずは、「社会性とは何か」について整理を行う

【意見交換会から出た各機関の課題・連携方法のツール】

●就労支援事業所

（課題）

・学校からの引継ぎの仕方

・学校、放課後等デイサービス以外で社会経験をする場がない

・卒業する際に、「困ったらここに相談しよう」という情報が伝わっていない

（ツール）

共通のものはないが、各事業所でシートは作成されている

●支援学校（和泉支援学校）

（課題）

・学校、放課後等デイサービス以外で社会経験をする場がない

・個人情報の取り扱い方、事業所が欲しい情報と学校側が提供できる情報に差異がある

（ツール）

・進路のしおり

・校内支援部（サービス担当者会議の開催の調整を行う）

●相談支援事業所

（課題）

・教育と福祉の連動の仕方

・学校、放課後等デイサービス以外で社会経験をする場がない

・障がい児の相談員が引き続き、障がい者の相談支援を行う際、本人中心の支援に切り替わることを保護者に伝えきれていないこと（気づけていないこと）

・保護者によって、サポートブックの記載内容に大きな差がある

・サポートブックは、あくまでも保護者が管理するものであるため、支援者側で管理できな

　い。サポートブックがうまく活用され、移行後に情報の受け渡しがスムーズに行くようにする必要がある

（ツール）

・サービス等利用計画

・サポートブック（和泉市では「わたしノート」）